

授 業 科 目	公衆衛生学		
教 育 内 容	専門基礎分野	保健医療福祉とリハビリテーションの理念	
担 当 教 員	崎坂 香屋子 他		
学 年	1	単 位 数	1
開 講 時 期	後期	時 間 数	講義 15 時間

■ 授 業 概 要	
<p>公衆衛生ってなに？なんで学ぶ必要があるの？という多くの人々がもっている疑問に答えられるようになること、また日本や世界の人々、また障害のある人たちが広く安心して幸せに暮らせる社会を構築するための知見を説明できるようになることを目的とします。講義担当者は海外の開発途上国での活動も長かったことから世界の紛争地や貧困の厳しい地域での地域保健(community health)、コロナ感染症対策で明らかになったように公衆衛生学の重要性もあわせて学びます。受講者の皆さんにはまずは公衆衛生学分野の楽しさを知ってもらうことが重要な教育目標でもあります。</p>	
■ 到 達 目 標	
<ol style="list-style-type: none"> 1) 人々と社会の健康を守るための公衆衛生学の基本事項を説明できるようになる 2) 公衆衛生学で取り組まれている重要な課題について内容を理解し解決する方途(疫学統計等)を習得する 3) 公衆衛生学の成功事例や取り組みの実際を知り、自らで解決方法を提示できるようになる 	
■ 授 業 内 容	
第 1,2 回	はじめに (受講者自己紹介とアイスブレイキング) (1)公衆衛生学とは：1人の健康の改善と集団の健康の改善:コロナウイルス感染症事例から (2)日本の経験からまなぶ公衆衛生の歴史[地域衛生改善の成功例の映像教材使用]
第 3,4 回	日本の保健統計、疾病構造を学ぶ a.集団の健康水準の測定 b.人口統計 c.疫学および疾病対策
第 5,6 回	地域包括ケア：なぜいま重要なのか？ (1) 日本の地域保健のこれまで： [「医師たちは走った」長野県佐久市の事例映像教材、および「日本の生活改善」映像教材使用] (2) 超高齢化国家日本、多死社会日本の現状と課題
第 7,8 回	受講者による発表「公衆衛生の重要な課題：自分ならこう解決する」
第 9,10 回	インクルーシブな社会へ(1)：コロンビアの紛争被害者の実際と理学療法士の活動の意義
第 11,12 回	インクルーシブな社会へ(2)：災害地域保健学とは。 東日本大震災で被災者に起こったこと、日本の避難所が世界に大きく遅れた理由
第 13,14 回	インクルーシブな社会へ(3)：自殺大国日本の「自殺総合対策」を学ぶ。
第 15,16 回	まとめ：公衆衛生学の新しい課題と受講者による討論
■ 評 価 方 法	
<p>小テスト 30%、発表 30%、平常点 40%。 詳しくは受講者とも相談の上最終決定することとします。</p>	

■ 教 科 書

特に定めません。講義の中で適宜紹介します。

<参考書>

医療情報科学研究所「公衆衛生がみえる 2020-2021」(2020年3月)

安達修一編著「わかりやすい公衆衛生学第5版」三共出版(2018年)

國井修「災害時の公衆衛生～わたしたちにできること」南山堂(2012年)

神馬征峰「みんなの健康学序説：公衆衛生を動かした先達からのメッセージ」風間書房(2016年)

■ 留 意 事 項

<担当教員の実務経験>

JICA 青年海外協力隊でコスタリカ、専門家としてフィリピン、ニカラグア、カンボジア、ネパール、シリア等で地域保健プロジェクトに携わる。主として開発途上国での地域公衆衛生学を専門としている。東京大学大学院医学系研究科 国際地域保健学・国際保健政策学教室助教をへて 2009年ハーバード公衆衛生大学院に日本医師会から派遣される(武見フェロー)。中央大学総合政策学部を経て 2017年から帝京大学大学院 公衆衛生学研究科准教授。専門は社会疫学、災害地域社会医学、国際保健学。疫学的アプローチで地域に生きる人々の健康改善に取り組む。2022年より開智国際大学 国際教養学部 教授(現在に至る)